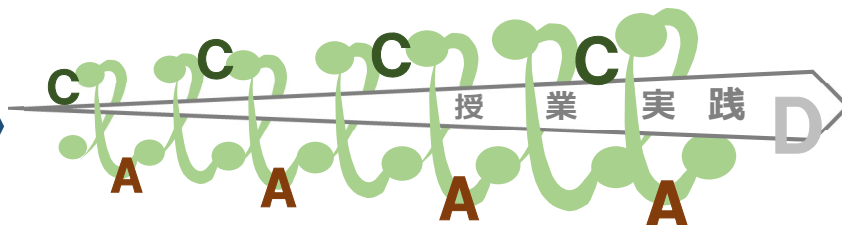


終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

子どものつばやきや
様相から Check することが大切です。



「やってみたい」
「知りたい」
「できるようになりたい」
「もっと工夫したい」

□ Check 1

- ・具体的な活動や体験を通して
思いや願いをもち、表現して
いるか

「もう一回試してみよう」
「次は、〇〇に変えてやってみよう」
「〇〇を増やしてみよう」

□ Check 2

- ・試行錯誤や繰り返す活動の中で、気付い
ているか

「どれも、大きくなっているね」
「〇〇を変えたら、遠くまでとぶようになったよ」
「他に、どんなことをしているのかな」

□ Check 3

- ・繰り返し活動し対象と関わる中で、仲間と伝
え合いながら、気付きを自覚したり、新たな気
付きを生み出したりしているか

「〇〇できるようになったよ」
「はじめて分かったよ」
「前は～だったけど、今日は…」
「明日も見に行きたいな」

□ Check 4

- ・気付いたことや成長を振り返り、表現することを通して、
気付きの質が高まっているか

A 授業改善のポイント

☞ 1 : 具体的な活動や体験を通して、思いや願いをもち
表現するためには

- ・児童が対象への興味や親しみをもてるように、教師が
導入の提示を工夫し、対象に直接関わる活動を意図
的に位置付け、活動を重ねながら関わりを深めてい
くことが大切です。さらに、気付いたことや自分の思
いを表現する、伝え合う場を設けることで、意欲が高
まります。

☞ 2 : 試行錯誤や繰り返す活動の中で、気付くためには

- ・生活科では、繰り返し自然事象と関わったり、試行錯
誤して挑戦したりすることが、気付きや、その質を高
めることにつながります。気付きの質を高めるため
には、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見
通す」「工夫する」などの多様な学習活動の工夫が必要
です。
- ・試行錯誤の過程を児童が自分で振り返って自覚でき
るように、気付きを自分で記録できるようにしたり、
教師が写真や動画で記録して振り返る際に提示した
りすることが大切です。

☞ 3 : 繰り返し活動し対象と関わる中で、仲間と伝え
合いながら、気付きを自覚したり、新たな気付
きを生み出したりするためには

- ・自分の願いの実現に向けて、条件を変えて試したり、
何度も観察したりしながら活動し、発見したことや
工夫したことを仲間と伝え合い交流する場を位置付
けましょう。伝え合う活動は、全体で意図的に位置
付けるだけでなく、活動や体験をしている最中も行
われています。表現することで自分の気付きが確か
になり、仲間との交流で新たな気付きが生まれます。

☞ 4 : 気付いたことや成長を振り返り表現すること
を通して、気付きの質を高めるためには

- ・活動や体験したことを言葉などで振り返ることで、
無自覚だった気付きを自分の中で明確にしたり、そ
れぞれの気付きを共有したり、関連付けたりするこ
とができるようになります。振り返りを位置付ける
だけでなく、教師が「いいね。」「なるほど。」など児
童の気付きを認め、気付きや学びのテンポに合う声
かけをしながら見届けることが大切です。

ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編な
ども参考にして授業改善を図りましょう。

